貞丈雜記

三之下

ワ 3
6592
6

門 ワ 3
號 6592
卷 6

一うこゝろ乃ふきうきこゝる、あらせの服のきこゝろ事古記ゝ

ものゝ曽我物語巻九兄弟出立ノ条十郎がそゝ夜の出立まハ白きうゑ

ひふゝ乃ふきうくかゝきこゝるにむゝちごゝりの虫毒乃袖を結

ゞて肩ゝうけ巻五扇ゝ装束まハあゝせゝ小袖の服ふゝ

ゝうきこゝるを狩場の用意ゝやこゝろゝうゝくゝさゝゝ乃ひ

ゝゝれゝ蝶を二ツ二ツ重ゝ土書こゝるゝまんぢの袴ゝ重ゝ

ゝふゝゝよゝせゝゝせゝゝ源平盛衰記巻十五宇佐川合戦ノ条慶秀ハ白帷子

のつきうきこゝるに黄大口ゝ着ゝゝ同六の巻八道院参企ノ条ニまゝぐし

ゝゝ帷子の服ゝうきゝゝゝるゝ赤地の襠二ノ十の襠虫毒ゝゝ生ゝ第皆

虫毒の下ゝ重ゝゝて着ゝる大ゝこゝゝゝゝゝ事也ゝきゝうきゝた



昭和九年四月五日寄贈

法〻ハ素襖あどのめく左右の脇をぬいずあけて垂るゝ也
うきゝ多るハ闕〻る也あつせのゝきうきこゝるゝゝを大〻こゝ
ゝゝ裏を打ちゝる也大〻こゝ〻〻事ゝ裝束〻部に記
一法きゝ名ゝゝハ袴ゝて布ゝてもゝ〻〻巻て先上を細き
緒ゝてゝ〻〻〻て何色ふても染て後巻てる緒をことけ〻
ゝゝるゝゝゝハゆ〻ゝゝる也紅巻染の事裝束部に記ス同也
夫木抄ゝ家集藤花 源仲正の歌〻義孝のゝ〻ゝ
む〻〻さゝきゝゝ〻〻きゝゝ多る松ゝゝゝ名法ゝ〻ゝ式歌の公義
乃法ゝるゝ松ゝゝゝゝて出ゝ付き花ゝきゝゝる歌ゝ試の巻て
一名の衣ゝ名ゝ〻ゝる根ゝ名ゝゝ也

一ゆ〻〻名ゝゝ紅の色ゝゝ也深紅ゝゝ紅の色ゝゝ染
ゝ黒〻ゝ〻ゝる ハ櫟ふ色也櫟色ゝハ平人の黒染を櫟
制ゝゝゝ也ゝ櫟色ゝ剤〻ゝ常ゝ紅染を也〻〻色
ゝゝ也ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
夫木抄の歌ゝ 久安百首有芳門院ノ安藝 山ゝゝせる咲
法〻〻ハ佐保姫めゝゝゝぬぎゝけ〻ゆ〻〻色ゝゝ
山ゝゝゝゝハ山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一奥布ト云布上古あり也奥州より出る物欲詳あり
す東鑑ニ所ゝに見えあり 鎌倉時代迄行しが其後
絶たるあり夫木抄ニ光俊朝臣の歌ニ今も世にある由
聞あるに如くぬのゝもちひ[illegible]
一古ハ小児ハ早ク綿入の小袖をぶせざりし也小児ハ身
ハ温氣強き故也 東鑑巻三十四ニ云 仁治二年十一
月廿一日今日将軍家若君御前御着袴奥味也中略其後着始
縣衣給ふ〻縣ハ綿ト同字也綿衣ハワタ入衣也着始の二字ハ今始て綿入を
せ給ふ〻せらるを初るへし 右ノ若君ハ将軍頼経公の御嫡子頼嗣公也延應二年十一月廿一日誕生也三歳ニテ着袴ノ祝アリシ也
其時迄ハ綿入用ざりし也

奥味ノ事飲食ノ事ニアリ又祝儀ノ初ニアリ

左経記寛仁[illegible]年六月廿七日ノ記ニ云長絹一疋絹二疋

一上古ハ絹ハ四品あり長絹平絹細絹羅絹是也氏の恵今
院傷正室宇治書ニ海人藻茎と云書ニ見えたり長絹の
由 保元物語ニモ見ル 源平盛衰記 明徳記ニモ見ル 長絹の特衣 古今著聞集ニ見 長絹の衣 僧衣也太平記ニ見 少者皆
長絹ハ[illegible]絹ハ[illegible]絹ハ[illegible]長絹二十疋長絹三十
疋あり東鑑の中所所に見えたり 古事談巻二ニモ長絹二十疋 経頼之許ヘ送遣ト見タリ
一油あるに事装束の部ニ記す
一素服の事巻ニ[illegible]の凶事の部ニ記す
一懐妊の婦人の腰帯をゆるぶ帯と云の祝儀ニ部ニ記す
一宿衣ト云ハ衣冠の事也禁秘抄ニ御膳事ノ篇ニ宿衣ト
アルニ壺井義知傍注ニ衣冠ノ変也ト見タリ

延喜式太政官式
宇治見

一時服ノ名目上古より有り續日本紀巻十二云聖武天皇
天平八年冬十月戊申施唐僧道璿波羅門僧菩提等時服
○禄令云凡親王年十三已上皆給時服料春絁二疋糸二
約布四端鍬十口秋絁二疋綿二屯布六端鍬四挺云々
云云

八丈細布ハ丈ノ物ノ名トハ訳ス

一八丈絹東鑑ニ見タリ宇治拾遺ニモ見タリ是ハ今ノ世八丈
嶋より出る物ハ八丈絹ハ伊豆の此条早雲入
道の時出来て渡海せしもされハ古代ハ皆云ヘ嶋之古
書に八丈絹云云疋長サ八丈ヲ織る絹の品名
なり　早雲入道ハ丈嶋ヲ渡リシハ後土御門院ノ長享元年ノ事也北条五代記ニ見タリ　宇治拾遺物語巻一

庭訓往来ニ尾張八丈信濃布常陸紬ト見タリ

云才十八条利仁暮雨粥ノ条ニ　皮子ニもて入て云云
云又巻三才一条大太郎盗人ノ条ニ　八丈云云物あ云云物あ云云東遊巻三奉
送御幣物美紙拾帖八丈絹二疋右奉送如件治承五年五
月十九日参河御目代大中臣以通同巻十二建久三年十二月廿日上品八丈
絹六疋代百廿文各ハ丈○庭訓往来云加賀絹丹後精好美濃上
品尾張八丈信濃布常陸紬ト見タリ八丈絹ハ古尾張ヨリ出
シ也其一疋ノ長サ八丈アリシニヨリテ八丈絹トハ名付シ
ニヤ

一望陀布ハ云ハ古代上總國望陀郡ヨリ調物ニ奉リシ布也

延喜式縫殿寮式云新嘗會御服中畧望陀布二條○和名抄卷十二繒布類望陀布今按本朝式有庸布調布調布讃豆岐乃沼能又有信濃望陀等名望陀者上總國郡名也其躰與他國調布頗別異故以所出國郡名爲名也

一帖絹卷絹の事平ら〻たゝ〻るを帖絹と云丸く卷るを卷絹と云なり

一六丈細布と云ハ一疋の長サ六丈あり〻ふや今昔物語卷二十二觀現上人在俗の財盗賊を助けて物布を乞〻物語門乃服と云る皮子を二つ為て云ら きゝるふ一つハ文の綾十疋黄八丈十疋を綿百兩入れ今一つハ白き六丈の細布十疋絁布十疋入る云〻

一賤き者ゝ着る袖なしと云物を古〻多あり〻と云袖ハ衣乃あれハ多あり〻と云也古今著聞集卷二十魚虫禽獸ノ部下臈の為て臣と云布為物を為て襠を脛ゝ出してあ〻笠をあんきゝ

ゝ云

一錦入の衣宇治拾遺卷一オ十八条〻すゝこのきゝ奴二計又云狩衣色のきゝ奴の錦あり〻ある三ツ云〻増鏡卷五文永三年四月蓮華王院

借養〻御幸あり中畧人多ゆゑ三輛ハ女房の車ゝ乃ゝ入る五ツ

衣也御車ゝ乃ゝ入ゝ〻ゝ〻ゝ〻

一あるべき事女の服也傳書の説ハ汗衫（カサミ）裝束の部に記の事也と
いひ傳へる事なるべきをあるべきとの裝束抄とも江家
えぎれぞ有べきあるべき不用と婚入と記家傳ノ古女儀書ヨリ
あるべき長さハ八尺或ハ七尺二寸とあるべしとあるべて
詳なる事ハ知難し太平記ニ今川貞世ノ父今川上総ノ介範氏世ノ記故殿（ナン）笠符（カサヒルシ）ヲ思案し
給ヒケルニ赤鳥（アカトリ）ヲ馬ニ付ハヤトテ其後俄ニ付ラレキ石青野カ原合戦ノ
条ニ見又云駿河國并ニ數十ヶ所ノ所領ハ此後詰（青野ヶ原ノ後詰ナリ）ノ恩賞也國ニ
入部し給ヒし時我等（貞世ナリ）少年ノ初ニテ供シテ富士浅間ノ宮
ニ神拜ノ時神女託（タク）シテ云ク遠江國近シテ吾氏子ニ欲（ホシ）カ
リシカバ赤坂ノ軍ノ時我告し事ハ知哉（シレルヤ）ト云リ入道（貞世ノ父）殿座

寸法雜々云馬ノアカトリ寸法ノ事二尺一寸ニ布二ハヽ也又五尺二寸ニモ布二ハヽナリイツレモ緒ハ二所ニ付ル也

追記アカトリハ女ノ馬ニ乘ルニ鞍ノ上ニ打オホヒテ乘ル打シキ也
續武家閑談ニ見タリ其文別ニ記ス按赤鳥ハ借リ字ニテ実ハ赤畜ナルヘシ赤キ鞦ヲ鞍ノ上ヨリ畜レオホウ也

ヲ退テ何事ニカ候ヒケン覺悟セズト申し給ヒしカバ盃（ハイ）懺（ルヒ）
ノ事ヲ案セシ時我赤鳥ヲ賜（タヒ）し故ニ勝事ヲ得此國ヲ賜
ヒキト託宣セシカバ故殿其時思合セテ女ノ具ハ軍ニハ忌
事ヲカし爭（イカデ）思寄ケン誠ニ神ノ御謀（ハカリヒ）ト信ヲ取り給ヒしヨ
り以来我等モ子孫モ必ズ此赤鳥ヲ可用ト仰ラレキ右富士浅
間神女託宣ノ条ニ見タリ右ニ女ノ具とハ赤鳥ヲ乘テ云也右ノ引
ハ婚入ニ記ニ云ニ二ツハ云ル按ニハ女の衣服とハ
追記衣服ニ非ス女ノ馬鞍具
ハ云ハれ其形いかなる物とも志ル人ハ猶多キハ
ハ云追テ記ス

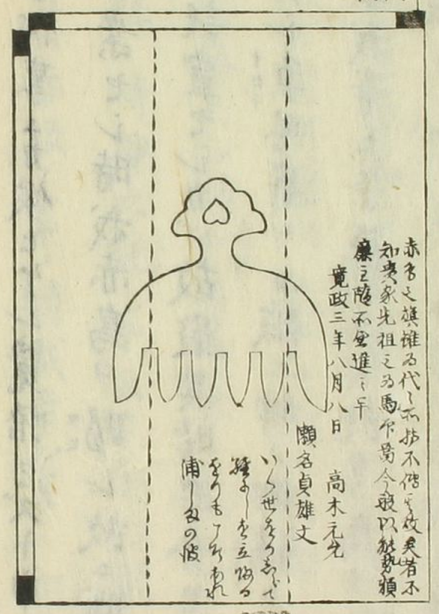
光大云赤鳥とハ假字ニテ垢取（アカトリ）ハ字也垢取とハ

梯の垢を取る為の具也この事八御示書後篇の赤
鳥考にくはしく論弁せられたれ共いとゝ書
要あるを取て左に記す

○長俊前の友なる瀬名源五郎貞雄今川家ノ庶流ナリ不拘なる今
川義元の馬印紋を下されし其図左の如し

今川義元馬験
垢取之図
生絹三尺四寸
組地紋金
竪四尺六寸
横三尺五寸

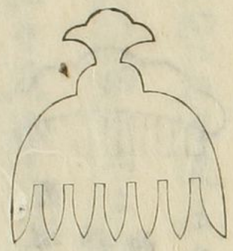
紫皮皆同



赤色之旗雖為代〻不拘不偖〻故実者不知歟家先祖之為馬印号今殺以紋数頻
廉之隨不堂進〻年
寛政三年八月八日　高木元光
瀬名貞雄文
いく世をかさねあふぎの
なびくもつきあれ
浦〻なの波

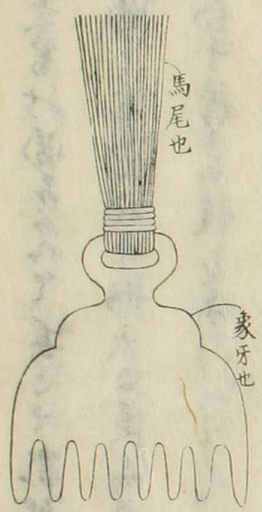
先大石於尾州桶狭間今川義元
討死〻時高木甚太郎元直分捕
〻〻る義元の馬印を高木家二代
相傳へ〻る寛政三年今川の庶
流なる瀬名源五郎貞雄不
〻〻異請〻き〻也

○藤堂家代〻臼井又五郎う家の紋ぬ左垢取〻こゝの偖
ふ〻ま



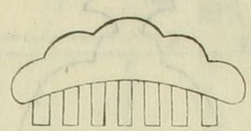
今川義元の馬験の紋ト同〻
臼井之姓氏出所未乳

○東照宮の御養女実松平因幡守康之ノ女津軽越中守信牧〻に再縁〻
君の御手道具ゟ垢取〻ものゝ其形如左




大サ如図上
色よあり〻
りと出有
なく

○是等は明らかに無之候へ共然る可き今は世栁（クシバラト）掃部と云ふ
物と古人の物と形大なる異有る加先人假字の赤多き歟
如何様の説を為す云々
○東條西尾の両家は今川家の余裔なり栁松（クシマツ）と云もあ
り紋は付たもあるべきの加くの造りしまあり如
右は赤鳥考の按書也猶書き事を加書を附て
可也



栁松ノ圖
西尾 東條
両家之紋也

一小袖を九物と云事あり（草庚九物と云は別なり）伊勢常真記云九物と扇
と太刀人の方へ一度は渡す先小袖の上に扇を置て其後太
刀を出すは也又云九物と扇と太刀を人の方へ一度は渡す
其小袖の上に扇を置て其後太刀を出す也云々
小袖を九物と云ふは端物は斎と云ふ小袖は表裏を異し
為ふ故に調ふれは九物と云也一説に云持調ふる義也
一摺の小袖の事貞順翁文書に云すり出小袖のみ是を依人歟
十四五迄云は稚は物と云云
又は色々の花かすりをすりなるすりすると云本形は草
木花鳥の形を多くすりたるを大の本形の上へ縫をのせ藍

（移徒の人に依て着用の結ひ様云々十り
貞順女房衣裝沢
抄云すりの小袖
と云は白き地りの
上に色々の絵の
をすりて縫を出し
一方は赤く結

也袖ノウトハ内ノ袖
きなり

の葉又ハ色〻ゝ花を布る包〻て絡の面をすゑ絵ぞうの
ゑ〻〻也是をもうゝ小袖と云なり
一無位の小袖小紋の小袖ハ腰をあるるのけずと云のあり貞順
豹文書に云紫ゝ小袖の（小紋ナトニ付ルコト疑ニテアラズ）紋を付るをハ無位（無位ノ）紋のをびめす
ゝ〻又紫も染やうのよるゝ〻初りあじ（腰ヲ白クシテ紫ニセザレバ紫紋ニテ腰計白クスルヘ）紋こゝをあけ
て染るハ猶よゝ〻（腰ヲモ紫ニスメルヲス）ゝあきゝ〻いぬハ略義ゝ又法あき
あごを染るハ表むもゝ〻ハ不出ゝ染小袖の（惣地ヲ小紋ナトニ青ク染出シタルヘ）こゝのあきゝ〻いぬ
をゞ裏ゝの附ハ可有斟酌ゝ又〻〻すをを（無位ノ紋ニ付色ニテモ染コレ計白クスルヲスト）紋ゝ〻こゝ紋
白〻あけゝハむもん（無位ニテハ）ゝ〻ゝいをゞゝ何〻やゝ〻（遠相ト書ク異相異形トモ云同シ）
百殿中ゝめ何〻ゝ〻ゝ又貞興返答に云男ハ初ゝすゝ〻の腰（横ニ帯ヲトリ惣地ヲ織腰計白クスルヲス）

貞順女房衣裝次第云こうげ色〻ハ紅を殺黄ゝと又ハ白ゝきゝ〻ゝ
ゝと〻ゝ〻いゝあ紅ゝ染て樺を赤〻染〻〻あて織〻〻色也初り色也

あけ可然ゝ染小袖もゝ〻ゝあきゝ〻ゝあるゝゝゝとあり〻きゝ〻
をあけてゝゝゝ計を白〻〻〻を云又こゝ紋あけゝ
ゝぬゝゝゝ〻を無紋〻染又ハ小紋あゝに染多〻を云也
一こうげ色の事貞順豹文書に云あゝせゝの紫可然乳又
人の好〻よりて（スワウノ黒ニテアル色ナリ）こうゝた色玉むゝ色きゝ初りぬきゝこうの
色あゞをゝ〻ゝとあり〻ゝこうげ色ゝゝ練貫を黒色の青
ゝある色ゝ染るゞ虫のこうげの色ゝ似ゝれゞこうげ色
ゝ名付ゝあるゞゝ此色同き装束抄ゝ〻ゝす
一（紅寄）こうゝ〻り筋の事貞助雑記に云腰帯ハ一尺計ゝ多んを
あさゞゝゝ云ゝこうゝたんゝゝかゝりすゞゝを染めさせ

貞順約文書ニ云カタミカハリノ袷ノ丁是モ十四五マテノ丁ニテいい犬追物方関書云文明九年八月廿方御所様初日御垂衆兵身名方々方紅馬ヲモヨキ被有ニ引両ノ御文云

云れいとありかゝるすゞしゝ云ハ紅をて細く横ふすゞしゝ云げ
ゝ染多る也地を紅る染るハあゝず筋を紅をて染る紅コウ
寄筋(ヨリスジ)と云ふり古ハ云事なるりと云ひ〳〵あり取
染方図あり

一大家ゞりの袷の事貞孝奏書ニ曰大家ゞりの袷ハ晴(ハレ)の時ハ
為すゞき也とあり大家ゞりハ云ふ多がり也云〳〵を
別の色を片身に袖をゝ多る也土佐光茂ゝ繪ゞき〳〵犬
追物の陰ゝも女房の人の素袍ゝ片方浅黄をて片方紫ゝ
を色ゝる物云〳〵是ゝ大家ゞりあるゞ〳〵若き人の為ゝ
法物と云申

一袖〳〵〳〵と云ハ袖の〳〵染ゝ〳〵染ゝ〳〵云ハ今世ニ云ふ
方ゝ染也袖ゝ方ゝの〳〵あり

一鉢頭巾(タヽ)鶏頭巾の事常照異草ゝ云頭巾御免あり〳〵ゝ多
ゝ〳〵ハ鶏頭巾を多用ゝ〳〵又鉢頭巾同為也多ゝ〳〵ゝ
所ゝて紫色を用也万ゝ〳〵ゝ色ゝハ悪ゝ〳〵ゝ
ゝゝゝ云ゝ〳〵ゝ不苦ゝ鉢頭巾乃事(石馬頭政国ゝ)細川典厩様昌院(ヤウレヤウイン)
常ゝ所用ゝ紙ゝて〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ(タメ塗ニシタル物ニハアラスハウ〳〵トヌリタル)ぬ〳〵ゝる物あり
ゞて多〳〵みて懐中するゝ〳〵不調ゝ〳〵又伊勢常真返答ゝ云
大道出仕のときハ頭巾益(マス)頭巾ゝ可用ゝ〳〵あり鶏頭巾と
八九〳〵〳〵ゝ〳〵ゝる所巾あり鶏の頭の色ゝ〳〵ゝ

あづきんと云ある色〻絣頭巾とハ四角にてらべこる頭巾と
四角なる形にはる絣ハ似たりとて名つけ〻ある〻
盃の字ハ假字なり

上野國新田山ノ辺ヨリ出ル俗ナルヘシ仕立俗トモ云モ原シ物ナルヘキヤ

一
ゆく〻山きぬ多山はむぎ麦車宣町殿日記云御小袖物も
てゆく〻あゆ何のてもうきもんうきぬゆく〻山の上ゆんの御
白小袖物もてうふゆく〻山つもきの上ゆんのてとあり按ずるに
山と云ハ地名をこりて名付〻や又ハ地合のよろ〻〻ざるを
ゆ〻てゆく〻山と云乳今世八丈ゆむきゆく〻山ハ丈と云あり
八丈鳴より出ずる品なり他國にて織ることを云也ゆく〻山と云
天文の比乃俗物の進て見ゆる名目なり

一
両〻世ゆゆすぎ〻〻〻れゆる色乃の御紋面〻記
云ゆ〻れゆい筋ハ八十九十迄を第ゆ〻〻〻をゆい筋ハ
三十ゆすぎてハきぬ物ゆそれ云〻ゆ色ゆゆすち〻ハ無
て物ゆぬき〻ゆ地色何のてゆ紅乃筋を織ることを云ゆ
れゆ井筋と云ハ地色何のてゆ紅の筋を横ゆて世ゆあり
御世〻〻〻ゆ色ゆゆ筋と云ハ地色何のてゆ紅の横筋計
織ることを云〻〻〻れゆゆ筋を一名〻れゆいすち〻計
ゆ〻ゆ物

女房内〻記云女房惟子ヲ色〻ニ染テ着ル俗ニ地

一
地赤地黒地白地惟子〻車簾中日記云六月一日ゆき
ゆて〻〻〻ゆき物ゆて〻ゆ〻〻〻云〻又七月一日何ゆゆゆ物ゆ

あてをきんぢしらみてをけること云〻何ときみてもと
云ハ地赤紅せのうこしぶふ白〻極小紋あるを深〻るを
云せくろきみてもとハ地黒のうたしに白〻極小紋
あるを深〻るをくろんぢしらハ縫地白あるを〻
地縫のうこしぶよ白〻極小紋あると深〻るを云也
一小袖惟子あるの事を記せ〻中ゑいきうと云事あり
このいきうとハ肩〻すそ迄事あり
一すがゑんの事貞孝朝臣相傳条〻云ぎ〻んとハぬ
ゑぬきあるてみてこうだい裏をつけに黒ぐ〻たる色
に入ぶすあるひまてゑ又ちゑ迄条〻ちゑふどを

あぜてぬハ雫をあきたがゑんあをて白〻裏いうゑも
ちうぞいの色こう〻と深に裏よハありうゑだいつきに
きずいちけあ〻ちけきぬみても深にてつきにあり
一ぬきゑ迄事あるを記せ〻ぬき白とハ別也享保三年六
月上原殿聞書云ぬきゑ白〻云〻今紅の柳色也（薄紅ナリ）外黒ぬき
青〻白〻云〻此ぬきゑハ御的の袋装束迄色也然を
〻を女房迄ハ角ハぬき白何るなに部を記すせ前のぬ
きゑと混すべ〻す
一段の物の事縫ゑみて肩よりすそ迄横筋を一寸余のそ
ばを殘〻るせ地黒ぐに筋ハ白〻（黒ぐるふ〻ろ〻の能色ゑて外黒ぬ極と云物く女房故実條）

奥殿女房衣裝次第云柳色トハ堅ケタル云色ヲ保テ横ヲ白ク為ル織ナリ

引両ハ肩ノ通ニ二ツノミアルヲ云フナリ

々云たんとうちいあるハだんの方上くゝあるりに女房内〻記云十二月
行かゝるもあるくゝ書るあるうえの裏小裏も表のいろ〻〻染るけに

一同袴鹿子事一物ハ非ず伊勢貞順豹文書〻二品ハ名〻えうう

同袴俗ニ鹿ノ子ト云形ノ如クナルヲナラヘテ染タル也惣体ニ染ル〻今ノ行幸アラレノ如シ鹿子俗ニ云カノコノ如クレテ所〻ニチラシ染タル也タトヘバツジカ花ノ如シ共ニクヽシ染ものゝ也別あり

一朽葉色樺皮色ハ事貞順女房衣裝沢才云朽葉色ハ
堅ゝ赤く染て樺ゝ黄ハ染ゝる糸あて織ハい樺皮色ハ
堅紙浅黄ハ染て樺ゝ赤糸あて織ものをハい

一附帯の事貞順請取渡沢才云附帯ハ〻女房内〻記云今
日ハ〻女房上下惟子ゝ色〻に染ハ為ハ附帯也是ノ
事ハ洞中ハ沙汰也俗〻地白惟子ハ帯ハ〻云也〻共

今世ニハカイドリ下ノ帯地クロシユスニヌヒアル帯ヲツケ帯ト云是物イツノ比ヨリ始リタル歟

天文永録元亀〻比の書也ハ〻帯ハ名〻附帯ハ〻云也
一茶屋染〻事茶ハ〻あ〻ゝ模様あり多〻〻ハ我〻ハ〻も久〻
〻あり如伝吉ハ茶の姫松幾世経ぬゝと云ハ歌絵
あせば我〻ハ〻も久〻〻あり ぬと云字を縫て伝吉の社の
〻ハを画き染茶の姫松〻云字を縫て松を画き染る為
多〻茶屋辻〻〻ハ〻に〻ハ〻ハを入て画き染る也あり
〻もハ何〻ぞあやうあり〻〻

一染小袖重陽ハ用事茶ハ記すめ〻室町殿の比花色染
小袖を必用〻〻云起も詳あ〻すきれ〻酌茶記一本ハ
藍染小袖ハ九月九日トアリ蜻川記〻染小袖の時分の事

清閑寺大納言惣房卿説云九月九日人ハ花色ノ小袖ヲ着スヲ節物トナスヨシ見陽ノ色ハ青キヲ〻

フトブユヘニシ
カリトカヤノタ
マヘリ

九月九日の出仕は必ず[illegible]也[illegible]れより何のもの[illegible]の素絶の
下ゐも[illegible]也云〻室町殿事の比花色小袖用〻れ〻欲
一たすきの事 源氏薄雲巻云たゞのめきみのうすき引も
云〻るむ袖つきぞうつ〻[illegible]ひとえ[illegible]和
秘抄云むら〻ハおきてく小袖をぬきずたすきとゝふ
物をきたる也猶秘説あり枕草子うつ〻き物の篇云
多すきうけるものむ〻るもの〻〻ものうらゝかなる
云〻るふうつく〻云〻春曙抄云是も児[illegible]ものあるべく〻云〻
藻塩草十八巻云〻すき旧例男女〻も[illegible]袴の時も
小袖をぬきず襠[illegible]用る也一条院の比はうまぎより始

[illegible]の小袖を[illegible]〻[illegible]たすきに白絲[illegible]乃綾小あふひ
裏白平絹あり三幅[illegible]袴のひろさ三寸帖〻大略如[illegible]
云〻治兼四年東宮安徳[illegible]袴の時[illegible]の極存[illegible]
きものうすくさゝあり[illegible]共[illegible]
一紫裏[illegible]室町家[illegible]比制〻定め[illegible]所見あ〻[illegible]
[illegible]家諸法度〻云衣服乃制公卿以上ハ白綾五位以上白小袖
[illegible]事[illegible]聴す紫袷紫裏練無紋等の小袖を用る[illegible]
[illegible]聴す[illegible]者[illegible]の衣服[illegible]各[illegible]分限を除[illegible]云〻
一あけの小袖乃事女房衣装次第云あけの小袖の事先ハ年

除く聞書曰又むらさきの袷ハ御禁制あていあるくしへとも女ハ公人ハ料所やうこゝ紫うら小袖用前分方極ハ服ハいりをもむ〻さきの御裏ハ[illegible]

あるいは男女の小袖とゝべ示すなるすゝ除こる事

一けう者の帷子の事　女房衣裝次第ちけうけの帷子の事

男ハ十二三迄ハ云ゝ女房ハ元服　惜云（マトウメ）きすり（未詳）ハ藍ニテ色ゝのもみをそめうこと

いつれもいへ家うけのうちハ用ゆる物なれ又きのこ（絵）

むすめ〳〵すゝけうあれ事未詳　追而考注事

一

## 烏帽子之部

一古の烏帽子ハ今世の烏帽子のもとこゝなるべし

事奇〳〵古ハ烏帽子ハ用ゆ〳〵ハ立烏帽子ハ折ら

ず也續世後物語ニ夢ハ烏帽子ハ折ら

ける事〳〵　鳥羽院ノ比ヨリ云　比ハ立烏帽子

折り〳〵ハ折ら〳〵ハ伝ゆめ記ニ又大的乃書ニ射手ハ出鞠

狩〳〵ハ烏帽子を左へ引ぎ折ら〳〵ハ又この

よ小町ハ謡（ウタヒ）ニ立烏帽子〳〵紙ハ物ハ引ぎぬの袖

似ハ引ぎひてとあり皆烏帽子のやうなるゆゑ

立烏帽子〳〵も時よりハ折ら〳〵ハ物ハ引ぎ

新野聞書ニ野宮宰相定基ハ云烏帽子ハ也ト帽子ハ今ハ用ゆ〳〵ハ侍ハ烏帽子を用ゆ〳〵ハ紙を除ハ古きハ

やハ〳〵ハ自由ハ物ハ建保職人尋合ハ番烏帽子師ノ歌ハ　我為ハ烏帽子ハ物ハ

ん也ハ夜ハ〳〵ハ

○貞丈云烏帽子ハ物ハ作ハ物ハ

を作ハ物ハ紙ハ物ハ

ウルシヌルナリ

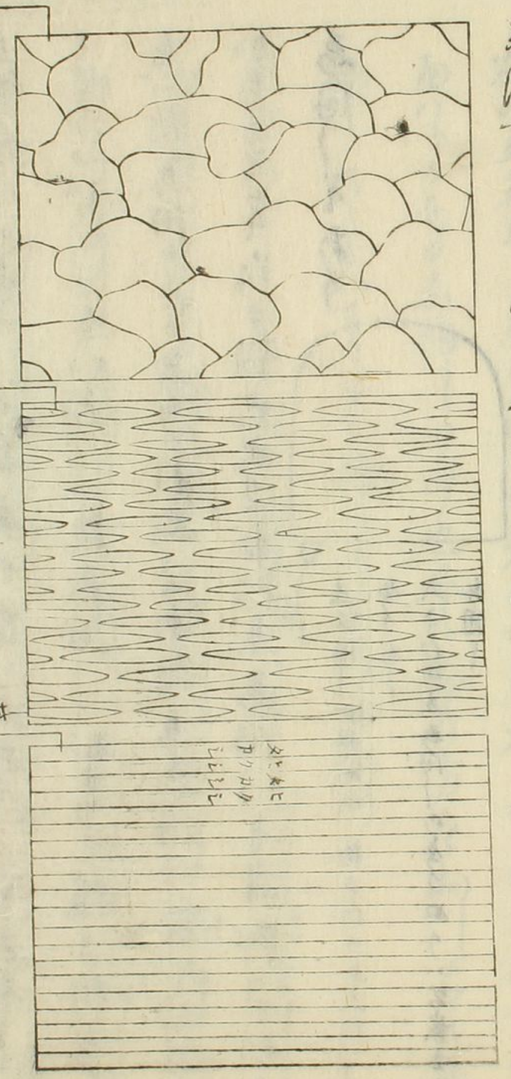
衣服令ニ礼服ノ条ニハ冠トアリ朝服ノ条ニハ頭巾トアリ此頭巾ニ羅ト紗トノ品アリ冠ハ皆ク纓ハ時シ此頭巾ハ後代ノヨボウシナルヘシ

ゑぼうしハ花園左大臣有仁公ヨリ始ル徳世絶物語ニ見タリ

さびゑぼうし上古ノ頭巾ニ羅ト纓トノ品アリヨボウシヲ紙ニテ堅ク作ルニ至テサビヲ作テ其品ヲワケタルナルベシ

一ゑぼうしふちびとゝるのあり ゑぼうしの志ゝ志ゝ事也大さび横さび柳さび あど条〻 何り古へゑぼうし秘やかゝるを作る 時代よりゑぼうしをもむよそ紙おかりハ有りしを 今の世ゝゝぬるゑぼうしまゝ動て形を作りて板をかゝる 多をかりて紙をそゝにかゝ あてゝちゝゝて ふちびを する也徳世絶物語よりふちびゑぼうし ハ後ふきゝめきゑぼうしとゝ物出来てさびも有〻形め 良ゝぬりて光りなるゆへきゝめきといへるあるべ そのき ぶゝきゝに剃ゝゝつぎゝゝゑぼうしを作りゝる ゑぼうしとば ふちびあるゑぼうしゑぼうしゝゝ いひそゝろもそゝゝる

あ法ゝゝきふめきゑぼうしゝ今ハ用ざる物なり



大さびめ甘也岩石の面のめゝゝゝくひゝ 疋りゝる形をゝ玄 ゑぼうし風折おを用ゝ

柳さびめ氏柳の条の形のめゝゝゝくひゝ きくすゝ也又柳行李のあゝめゝ似ゝ 白張ゑぼうしを用ゝ

横さびめ氏横るゝゝ ひきゝゝゝくゝ多ゝ玄ゝ 素襖ゑぼうしを用ゝ

一縁塗（ふち）と云ハ硯（すゝり）を付（つけ）ぬる函（はこ）也ハ至ぬりと云事を略（こぶ）して硯ハぬりと也今の家方ハ立文箱も風折（かぜおり）ぬり也

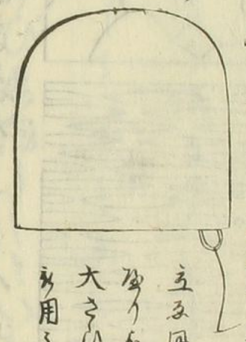
一立文箱ハ高（たか）ハ高（たか）の如（ごと）く也立文箱を高（たか）と

ぞうりいひ〻るを〻の折（おり）箱（はこ）為（なす）事（こと）て後（のち）ハ折（おり）ぬ

ばハ折（おり）箱（はこ）ハ多（おほ）くぬりあた立（たて）箱（はこ）〻こゝ〻ひて

かちをそたる旧也大（おほ）きに折（おり）立（たて）箱（はこ）も有（あり）柳（やなぎ）き折（おり）立

箱（はこ）もあり



立文箱〻の形（かた）ち氏（うじ）柳（やなぎ）きひの立文箱〻ハ
多（おほ）くあ〻
大きひの立文箱〻の多（おほ）くぬりハ公家方ニ
多用（おほ）く

右の立文箱（たてふみはこ）〻ぬりて前（まへ）の方（かた）を折（おり）こむ也是（これ）ハ古（こ）た

風（かぜ）折（おり）箱（はこ）〻ぬりて多（おほ）く用（もち）ゆ

一風折箱（かぜおりはこ）と云ハ右の立文箱（たてふみはこ）を上（うへ）をすゝ〻

ぬる折（おり）ふせ有（あ）る様（ヤウ）也風（かぜ）を吹（ふく）折（おり）ぬる様（ヤウ）風

折（おり）〻ぬる立文箱（たてふみはこ）〻ぬりて左（ひだり）の角（かど）を上（あ）げて右（みぎ）の

方（かた）へ折（おり）ふせ〻る角（かど）を右（みぎ）の角（かど）を上（あ）げて左（ひだり）の方

へ折（おり）ふせ有（あ）る也左折（ひだりおり）と云（いふ）ハ今世（いまよ）も如氏（うじ）有（あり）是

を知（しる）人ハ右の方（かた）へ折（おり）ぬ〻る角（かど）を左折（ひだりおり）〻ひ左

方へ折（おり）ぬ〻る角（かど）を右折（みぎおり）と云ハ誤（あやまり）有（あり）

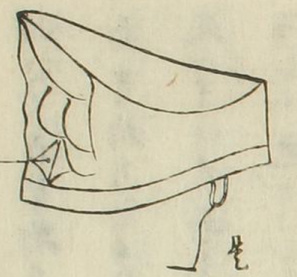
風折の箱名ハヒレト云平礼ノ字也スベテエボシヲ左カ右ヘ折フセタルヲヒレト云是惣名也ヒレトハヒラメク義ナリ

貞文襲西三條殿
東坂二右眉五眉
諸眉小諸眉ノ名
見タリ後拾ハ遥
遥院実隆公ノ作
也又故実清話ニ
諸眉小諸眉右ヒ
リノ名見タリ後
拾ハ三光院実澄
公ノ作也遥遥院
ハ三光院ノ祖父
也時代遠カラズ
然レハ眉トスル類
ト云上リトスハ
通称ニテ新古ノ
差別アルヘカラ
ズ

一今時の立ものゝ風折ものゝ前の方を初と
みるものは左眉右眉諸眉片眉小諸眉と云品あり片ふ
ものゝ前の中そぐりうるをぐの下より出て押出し
るものあり片をまゆと云右の一方より出しるハ片眉
也両方より出る諸眉也片眉ハ内より左の方へあるハ左
眉也右の方にあるハ右眉也諸眉の内より出る方と大て
あるハこぶ諸眉と云小ふる方へあるハ小諸眉と云也今の眉
とゝるも近代の初より非す又もろ〻こみ片ひらゝあるを
云又ハ左上り右あゞり諸上り片上りあるいふべき也
野〻宮宰相定基卿の説ありこれゝのゝも皆ものを



こまゝらゝ出来し事なるべし上古
ゆ〻ハ風折ものゝ時代まゝ〻のもあるべしまた
装束の衣紋を作るゝ〻ハ後鳥羽院の御代の
あるべし〻形ゝ衣紋作るのハ後鳥羽院の御代の
比より始し〻ものゝ歟



先ハ風折也立ものゝ眉の立不同〻

氏あるゝは眉をあゝ左太ものゝ片方のものあり

山槐記治承四年二月四日記ニ云今日勅院今著始御烏帽子云々無[illegible]儀ノ大納言[illegible]調[illegible]進之八角蒔[illegible]管二口一和一[illegible]

一平禮（ヒレ）ト云物別ニ設ケ[illegible]物ハ[illegible]ト云也何ノ為[illegible]

[illegible]ヲ折リテ[illegible]ヲ平礼ト云也古書ニ平礼トアルヲ見テ[illegible]イレイ

[illegible]折リテ[illegible]平礼也

又ヘイライ[illegible]ハ非也ヒレトヨムベシ平礼ト書イヒラレイ也ヒトレヲ用テヒレト訓（ヨム）也[illegible]万葉書也[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ヲ折レバ[illegible]

[illegible]云同意也風折[illegible]ヲ平礼也侍[illegible]

[illegible]也古の[illegible]ハ[illegible]（古ノ[illegible]ヒラカニヒラ[illegible]カト倒[illegible]カヒ[illegible]ヲ用スガヒ折タル所ヒラメクナリ）

[illegible]字ヨ付テ平人の禮服也ト云説ア[illegible]也

平人の礼服ト[illegible]ハ中ノ院通方公の[illegible]

[illegible]有リ

古事談云一巻於鳥羽院御前有酒宴元日宰相中将憲[illegible]人為上戸而一両度之後固辞尚被責仰之時申云冠ノ額ノツメ候之間不可叶云々氣色[illegible]不便上皇急令著即御烏帽子ヲ取テ是ヲヒヨトテ給ケレハ左府[illegible]御前ニ候ガ傍ハ給テ自カ烏帽子ヲ取テ出小[illegible]鳥ニ著件ノ御烏帽子トシテ房ガヲコフ直ニ[illegible]カバトアテ平礼ノ烏帽子ヲ給云々

又飾抽曰古人著薄金烏帽子臨朝平礼臨朝平礼トハ立ヲボレヲ著テ平礼ヲ用ベキトキハ朝ニ臨テ立ヲボレヲ折テ平礼ニスルナリ

[illegible]ヒ[illegible]餝抽（カザリシヤウ）ト云書ヨ或書曰雖中少将備威儀日多平禮公保卿少将二十許（ハタチハカリ）ニテ常ノ事也基家光能及四十ニ近代其両人外将不及見基家又好此事云々右中将少将トアルヲ以テ平人の礼服ト[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ

多る志ゞ〳〵のある中不存の之品ハ今も著たゞめ〳〵やゝふる所作るなるよ也又ゞ〳〵ふる也古代ハ皆やゝ〳〵の成ゞ有〳〵也後ヨリ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

公家古実ヲ学フ人ハ一概ニ武家ノ書ニアル事ヲハイヤシメ用ザルハヒカ事也武家ノ書也旧古書ラバ用ベシ公家ニタエタルヿ武家ノ書ニアル事アリ引タテエホシ武家ノ古書ニアリ

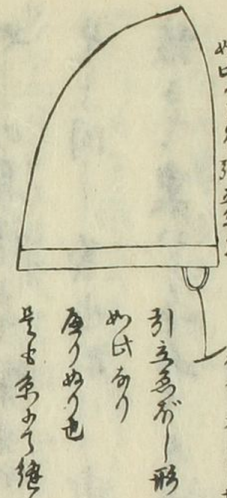
隨兵日記ニ云文明十八年小笠原元長記也ヘリヌリハ出陣ノ時大将又ハハタサシナドキベシハチマキヲスベキ也えし此ヘリヌリハ引立エホシ也

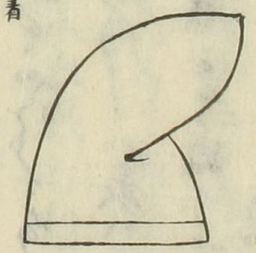
也と云人あり一向かの実あき妄作あり笑ふべし

一引立ヘリヌリハ紙をもうすく作りさびい大さをみて作りぬりまする也形ハ右よりあり折ヘリ作る物也きれば引立て高ぶりと云也

此説兵具雑記ニアリ京都所武家ニテヘリヌリト云ハ引立エホシノ事也

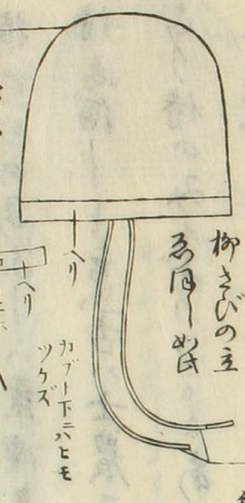
軍時代ノ古書也

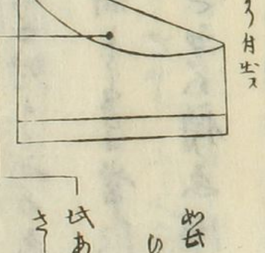



一柳さびの折ヘリハ柳さびの立ヘリを上ゑ折りあ折ヘリ作るかよりヘリ作る也

源平盛衰記巻三十二俣ノ直垂ニ同毛ノ鎖引立エホシレヲ着




ホシレヲヘリヌリト云ハ書ノ下ニ着ルエホシレヲヘリヌリト引立ト也ナレ折ニハヘリナレ引立ニハヘリアルユヘナレホノヘリナキニ對シテ引立ヲハヘリヌリト云ヌヘンヌリトモ云ヘントスハヘリト云何ノ轉ニタルナリ

公家ニ衛府ノ長ノ着ルモ此エホシナリ今ハヘイライト云平礼ノ云変ヘトリ



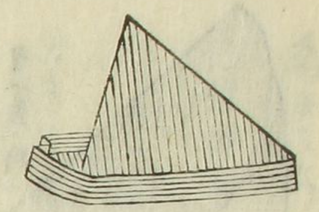

右三品ハ軍陣の时ばかりの事也ちまきをしてをしようぶる也又高ぶりのくりに前の方ハ四角はりまきの真中をあて耳の通ハ丸ものの目を黒き

系まてちどりうけまゐ為ものをぬひ付ても用
也飛弾ま惟久うゐがきうる後上年合戦の絵なも武者絵
入うてゐがーのぬびうる物をうきうるにゐがーまはち
まきを付うる物ま為がき多り此後図末あ〜ゑ

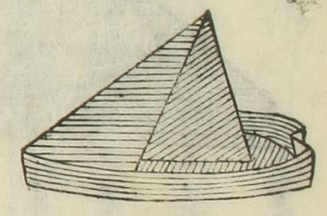
古ハ紙袋ニ絵ヌリテ作ルユヘ又ボレヤハラカ也常ニキルユヘモメテレハヨル也鳥羽院衣文トテ始メタマヒレ以来又ホレヲ紙ニテ張ヌキニシテモメタルハノ形ヲ木形ニテ出シテ是ヲリビト名付タリ木形ニテ打テバイカヤウニモサビノ形出来ルユヘサて〜ノサビヲ作リタルナリ

一横ちゑの為がーハ素襖きうる時うぶる為がーも今ハ
侍為ーとろふ古ハ士農工商とも常にうぶうる平服
為り侍のみうぶうるまあぶぎ為ハ侍為ーといひ
又近代ハ納豆為ーといひ聖ーうり孫非也今時田舎ノ寺ヨリ樽那ヘ納豆ヲ送ルニ薄キ板ヲ三角ニ折曲テ紙ヲハリテ底ニシテフレニ納豆ヲ盛也其納豆ノ入物ニ似タル故納豆島帽子ト云ナリ此横さびの為がーも古ハやハらかなる立為ーまれを折て三角のま

袖きを作うる也まきハ即為也是也ひれ為がーの
内也今ハこそくぬううめまきをぶ切て為ーてうおき
まうーらへうる物あらぬ物乃極まるあうる為
横さびの為がーの本物也立為ーも此れを折て
本物折をうるき折やうふ〜為ーとも
横さびのひき為がーー折やう生を分折為ーとも
才一左へ折ル
才二右へ折ル
才三前ヲ角ニ折ル



第四左ヨリ見ル形



第五右ヨリ見ル形

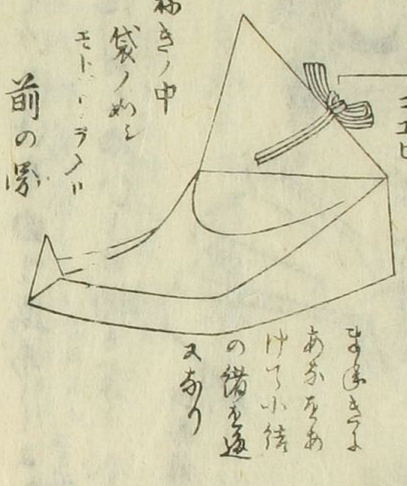
右ハ昔紙とも京極樵とも云折くゝ也男の一二の次男のお
くゝ陸くゝ折へき事
一上古より折為ぶゝ（古のよこ八さびナリ）うすく屋つゝみて立為ぶゝ切折
て折為ぶゝ（に）ちくる也（ちれぎ）まきも（三角ナル）おつ（ヲ）ふくゝえる
ありて袋のめゝ（を）袋のめゝ（ある）夕間へ髪のもとゞりを入る
てゝぶゝ（ぶ）りゝ（ぶ）り

一折為ぶゝ（為）よりふめゝ立為ぶゝ（を）折てゝぶる（ヒダ）（ノヒラ）切（風口）
ものあき也今ハうゝくぬりて（三角ナルモノ）ぬきを切為ゝてゝうおきよし
（ヒ）るの上ハ風口とてあ為あをあけ又てゝうぶうけを付る為
ほうゝを曲て為ぶゝ（る）折ヲ亜也武者の事昔ハ為ゝう
一為ぶゝのこゆひとゝ物も古ゝ今為ゝあり古ゝ小結の形ぬ左

武陽飛彈守惟久カエカキシ後三年合戦ノ繪ニ見タリ

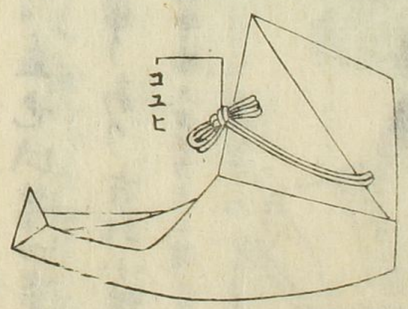
## 古代のこゆひの図

こゆひハ緒二筋をもてゆふ




前の図

古の人ハ月代をそるのみ多く数髪をいとゞ長くのこ中ゟ上げて紙緒の平き
ものを入て こゆひ ゆひしあり 又四ーの平きの袋のあくゝ多る中へ白ゝ
玉ぶし ぬぶ ぬあり




後乃図

こゆひの仕様
下に記す図の
ごとく

一小結（コユヒ）ハ組緒二筋をもて結也色ハ何色とも不定又紙捻（カミ）
て小結するゟ布衣記ゟ元元ゟ出（スコシ）行儀を正す時乃
事なり

一式正の時ハてゝぶりけ也ゟの常にハこゆひ也ゟれぞ小結
する時ハてゝぶりけせず てゝ ぶりけ也る時ゟハこゆひをぞ
せぐるなり是古よりの法なり

一こゆひの長ハ緒を尺計二筋をろくてゝをとぶりゟうけ一
むすび結びて結時二ゝゝゝゝゝ ゝゝゝゝゝ をゝ紙あまり緒のをゝきををろく紙
を細ゝこうりて包てゝひなり を四ーの内ゟをゝ引出
ーてゝ結きゟうげてゝをゝ結ひ蛭也ゟ結ハをゝ

乃左へおし緒の端ハ右へ

一五尺〜五寸の唯歌の入る所の物名也曽我物語巻六和田酒盛ノ条たちかへ地獄ぜん（ドラヲ三ナリ）すけ殿りもいざんとて

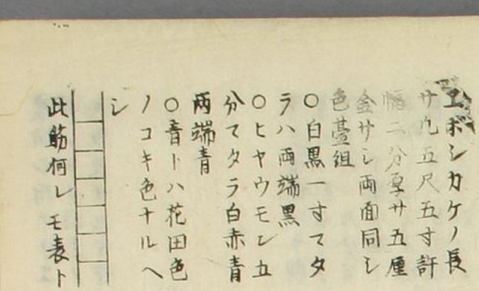
あぶ〜の法師おしてひろ記の為ひとつくらひ云〜

一巻よ五寸ごと〜五尺〜小袖とてくばる無ハ別〜也然ん

一伊勢下総入道宗五の記（条〜宗五）五尺〜おハこゆひあき物くばりけをする也それてくばりけを為がしまおりけるを今ハこゆひとゆハ〜貞丈按此説非也上古よりこゆひとくづりけハ別也くばりけをおりけるをこゆひとくづりけすす

一くばりけを五尺〜くばりけとる云也先ハ為がしの上すりくゆ緒也くばりけを文字ハ頂頭（チヤウブ）掛と書也調度掛と書ハ非也頂（テウ）ハイタヽキ頭（ヅ）ハカシラ也五尺〜おいしき頭の上を掛る物へ頂頭掛と書也宗五の記ようくづりけハ一寸ほ

ゑ〜に白〜黒〜折也下緒（サゲオ）のめ〜也但さげおりハ細〜



裏同シ所ヨリ上ボシトメ同色ノ丸組長サ五寸許

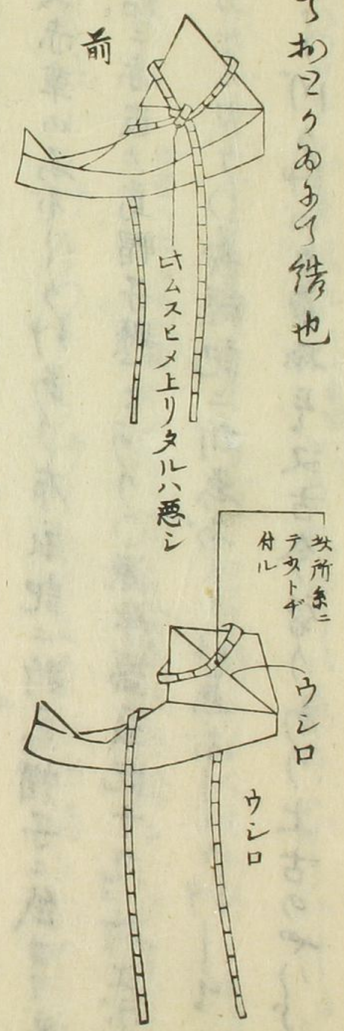
御子場始坂分園書記ノ書云ヲ[illegible]ばうけハ五分ヨリ下緒の如く組る也色ハ白赤青也但色ハ人ニ好る[illegible]

うすゝ[illegible]又云ヲ[illegible]尾ヲ折ヲ[illegible]又ヲ[illegible]折
ゝるをお芋故勢州[東海道]ドもれゆゝハ糸ヲ[illegible]ゝ馬
の尾ヲすゝハあせをたぐゝて用ゝる人もあり由道照
愚草ヨ 伊勢六角左衛門尉貞順の記ヨリ 又曽我物語ヨ一寸まぐゝの
ゝ[illegible]ゝけをつよゝけとあり又曽我物語ヨ[illegible]ん
ゝ[illegible]ゝけをつよゝけとありひやうゝ[illegible]ハ色ゝの色
をまぜて色ゝる[illegible]ゝ[illegible]ん[illegible]ゝ素襖の紋ヨひ[illegible]
ゝ[illegible]ゝのあるも同事也[illegible]ん[illegible]ゝけ
後三年合戦の絵ヨ見ゝ[illegible]白の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
良に色をまぜる[illegible]

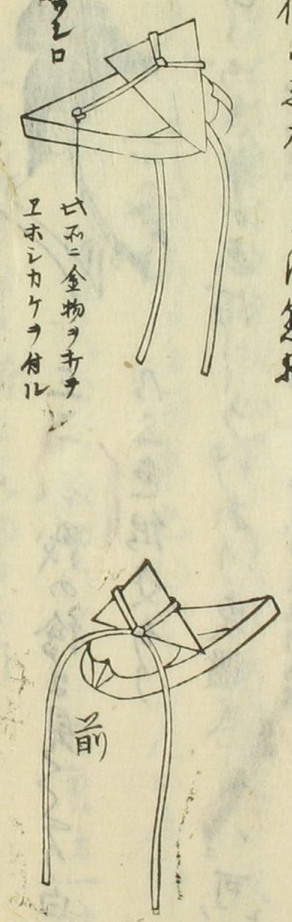
○又むゝちき革の[illegible]ゝけあり東鑑巻九ニ可尋問是[illegible]ん[illegible]ゝけ也後
實否於囚人之旨被仰景時ニ着白直垂折烏帽子紫革烏帽子懸 三年合戦の絵ヨ見ゝ[illegible]白青赤
○又赤革の[illegible]ゝけあり布衣記ニ折烏帽子ニ紙ヨリ之小 乃三色組交あり
結ニ赤皮ノ烏帽子懸ヨリ○源平盛衰記十九ニ折エボシ
カケニカケ○義經記ニ折[illegible]ゝけて
一てゝけのうゑ極是又古今ヨリあり上古のやゝ[illegible]の
ある[illegible]ゝけ結付るヲ物ヲし只

てゝばうけの真中をゝゝあゝ結てゝゝる掛垂を左右へ引おゝゝ

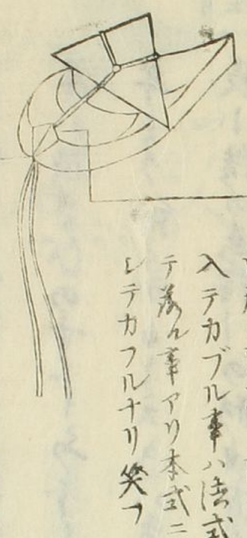
てゝあゝゝあゝ結也




近代のあゝゝうけ様




當世あゝゝうけを風口へ引入てゝゝる人あり甚誤也




此所ニ穴あり風口ト名有ク穴ヘエボシカケヲ引入テカブル事ハ法式ニ無キ事也其上エボシヨルギテ落ル事アリ本式ニアラズ今世物シラヌ人〻如此レテカブルナリ笑フベキ事ナリ

一古書ゝ組ゆひゝゝる為形ゝゝゝ

長小袴緋赤白一寸班ジ六寸計カタク組幅一分拿一分長三尺計平組四ムスビ余手二束カケ緒白黒一寸マダラ幅一分手摩三重長五尺計此寸法其人ニテ長短アルベシ定寸法ナシ常服ノ時長クシ黒皆也

文文十九年五月六角義秀依命土佐刑部少輔光茂於江州観音寺城本丸画之

八〇〇〇は但成人の様よりなるべくは不肖の人は勝て折ゑがしきをきふるをは云〜不肖とふ似あるぬ事也又道照愚草ゑ云ぼ〜の事年齡よりなるべき事勿論こはあうくくらの事は大方は十八九まぢもめ〜は当時はをやくめ〜留りはさびのうちはは事まきをくはいずきもトハキハ云マリナリはくども年齡のまきをくをまきる八不似合は當時は昔ゑ為事はこ〜ちびのうちはは以年は横ちびのすど〜ふと〜長年の人は細ゑする也〜は方年ちり細くすると云きはまりはあきと〜

近年諸藝才覚哭代物事云たゆひの代くりくいまず世のこと色くくこと云文〜ぐと三ゑ位三百五十ゑちゑとちゑ年

長小袴は長きをうりゑて九くらは

長小袴九位ニテフトサ筆ノ軸ノホトニテ二筋ノ以テ結之長三尺計ナリ

古代の長こゆひの事

ず道照愚草ゑは長組淪と輪の字付くれば九くらはげくるをこゑあるべし

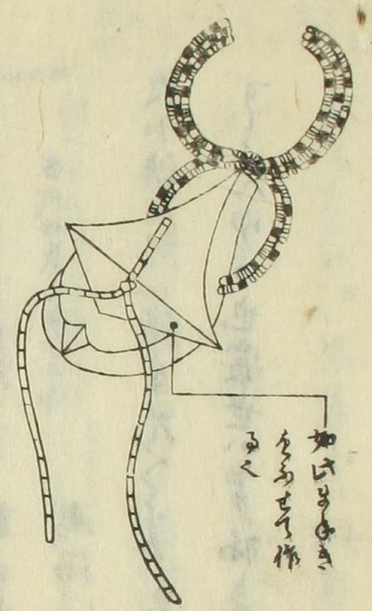
道照は天文永録比の人なるて義晴義輝両将軍の時代ゑあくる也右の事

長小袴の形は詳ゑ為くくくり右の事ゑ為〜のまきは伏

ずゑ為ゆゑ也當世は事ゑきを伏せて作ゑ也

天文八代袴所

佐光茂が為がきと



此小袋ハ紙ヨリを巻のごとくのウふくさあるよしてくくくくしてしく白き袋うぐ
巻の糸ニテ巻きニケ止ム色〻ノ色乃糸うぐ
リの糸ヨリあやをろうまきくる物也

當世乃長こゆひの元ゞ
ぬ式あり

一古へ折うけ元ゞ〻と云ハ折元ゞ〻ハ袋小袋もてこれうけ
ずして頭ゐあ〻〻〻て後の社ぞうふそ元也
無禮の儀也室町殿の代ふうちうけ元ゞ〻禁制也
書よそそうり

一今の世ゆゑハ折元ゞ〻ハ袋さひ也袋也 袋ハ同〻と云物 素襖の袖ぞうふる物
〻〻〻〻ゆゑ多る人多〻〻 古京ゆゑれうち長絡水干
狩衣十徳うこぎ袋袴禮あゞ紙ゐる袖ゐもうぬ〻〻也 古
書古画を見て知ゆ〻〻 京うゆゑめゐ元ゞ〻うふぬ
事ハあ〻元ゞ〻うぐ袋ゐうぐ袋ゐ也ゆゑ無禮
ゆゑあり〻也

一元ゞぬり元ゞ〻と云物あり源平盛衰記巻卅九頼朝重
衡射面の条〻云兵衛佐渋塗ノ立烏帽子ニ白直垂ニテ寢殿ニ出テ着座空色ノ扇ツカヒテト云〻此元ゞぬりと云ゆ
折元ぶゆゑぬりうるゆゑハあゞぞるへ〻〻うる元の色を赤黒

エホシレニスミヌリシブヲ引テモアレ庇ソレハ西車ノ時ニ服者ノスルコトナリ野宴殿ノ答書ニ見ヘタリ

国大暦巻廿二上
神系服ノ条云鬚烏帽子青注云改世平人稜実サバシ或号常物通用之

今川了俊大双紙
二引目の大小人
ようなるべき推害
ゑぶしの色ハい
くれどもあるべ
べむらのゝ色
ゑゝ光ハあるべ
色のあるべしなど
ゑゝあるべき

くゝうきゑぶの色まゝ
事を累ゝて志ぶぬりとゝふ
このきゑぶ色の細ゑぼし
ぐきゝゝり黒ゝるゝ
ハのきゑぶ色むゝ
むらのゝ色ハあり
世人ゑぶ色ぬゑの
あゝすゑぶゝの
ゝ色ハあゝゝ

ありちきゝゝ
にそこへらをゑ
ぶりて紙ゝ会せ
てぬりとるおむ
らのゝ色まて召
らのるのあり
庆長ごろ人も
ありゝゝべゝふう
つくゝきゝ

永仁六年八月五日御幸部類云殿上人之中頭弁一人細烏帽子其外三人平礼又云新院脱履之後初御幸厳親法皇御在所于時公卿廿一人之中七人引立烏帽子十一人細烏帽子一人平礼

ゝのゝ比色ゑり

一公方様室町時代軍ナリ御ゑぼしの事諸書覆用扱云公方様御風

折ハ左へ折る平人ハ右へ折る額ヒタイ公折ゑの八左をゝあり右を

ゑゝする也平人ハ左ゑゑき也云ゝ左へ折るトハ是左折トゝ云物ナリ右へ折ルトハ是右折トゝ云物ナリ左折右折ノ事前ニ記ス

左ヲ高クト云ハ左眉也左眉右眉ノ事モ前ニ記ス

一細ゑぶゝハ武官のゝぶるゑぼし也いゝゝきのゑゝき

ゝ也ゝもゝゝぬゝずやゝゝゝゝ也太平記巻十三藤房遁

世の条ゑ看督長走下部カドノヨリハシリシモベ調度懸トノイカケ舎人等細ゑぶゝゝ

る由ゝゝゝゝ後二年合戦の絵ゑ細ゑぶゝゝゝゝる武

者多ゝゝゝゝ義家朝臣も細ゑぼゝゝゝる歟也

薩戒記應永廿二年九月十日上皇御幸東山泉涌寺布衣隨身一人細烏帽子常雜色立烏帽子也

園太暦貞和四年十一月廿八日條院御細烏帽子白襖御狩衣春宮大夫引立烏帽子園面宰相細烏帽子大宮宰相細烏帽子別當平礼立

右後三年合戰ノ繪ニ見タリ（リナキモアリ又（リヌリモアリ長絹直垂ニ細工ホシ着タルモアリ鎧ニ細工ホシ着タルモ有（ハチマキシタルモアリ

是皆細工ホシ着タル形ナリ

一軍陣の時うぶとの下よりかぶる兜にはちまきをそぐ付るものあり是古よりある事なり後三年合戰の繪ふ武者の烏帽子伏しうる物なり引立烏帽子ぬげ落ちぬ形をあらがきうふそれ兜にはちまきを付てもちまきをもなげうる物也又兜ばかりは必もちまき付る事定法もあらず所ゝ別なるもする也為様なり

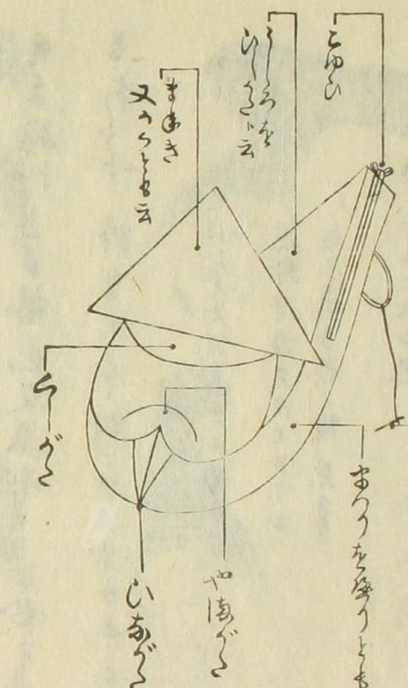
工ホシノヌゲ落タル図ナリ

飛彈守惟久カ工カキシ

後三年合戰ノ繪ニ見タリ

是引立工ホシ也

一横ぐしの折ふしの名所




一引入ぬ所ぬ〻と云ハ立ハ名ハ風折ふしぬ〻ふ
てもたゝ所〻ふてもかけ緒をつけぬ〻して頭ハ引入るを
ぬあるを云也ぬ〻ハ頭ハ引入る也元ぬ〻や

ぬ〻ある所也ぬ〻を入ぬ〻ぬ〻ハ立ハ〻〻〻〻て
引入ぬ所ぬ〻ハ古今著聞集巻六管絃の部花田の物語衣ハあるを捨き
て引入ぬ所ぬ〻ある男おくれじとせまるを云ハ外古書に有
一元ぬ〻ぬ〻しろの針を打ぬ〻ぬ〻と云ハ串ハ猿楽の
宝生太夫ぬ所あるハ物語生串と云也乃説あり信〻難
猿楽の志所ある物を八分ぬ〻ハ用をあぐ〻す般する所ぬ
しを後さぐんやうに頭の上ハ保ち立く為ハ計ぬ〻ハ
保上串と云事ある〻〻但俗称也ヲボシト〻メト云へし後ニヨホシトスルトアリ
一ふろの志所〻の事宇治拾遺物語巻十一第十二条七十あり
ぬ〻ある所ぬ〻ハ頭ハ

物ゝ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]をひきいさて[illegible]ちいさきゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ杖ゝすゝりてあ[illegible]ゝ按ずるに[illegible]精好ゝて作
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ物ハ古の袋ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ物の類ゝ
[illegible]

一長ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ物古代ありし也ゝ[illegible]ゝ[illegible]の長きゝ
ゝ[illegible]ゝ欽清以納言ゝ枕草子ゝ[illegible]ゝ物の部ゝ云み
そうにゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

一立ゝ[illegible]ゝ[illegible]の恰好ハ横の廣サ八寸あれハ竪の長サ七寸也大小ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ

一長小袴ノ黒皆〻云事あり常照愚草伊勢守良陸作ニ云元服の時
長〻〻長クミトハ長小袴ノコトナリ黒皆あり〻あり長小袴を一躰黒〻
あるあり〻〻

一烏帽子の緒〻事烏帽子社緒を内より外へ引出し緒の
先を二つにつけてふさよりめくる平〻先て緒をつむる也
一遍上人繪巻物ニ烏帽子ゑ總を付るあり右ノ如

一烏帽子塗様の事黒塗椋実サハシノ三品有黒塗とハう
油〻にて黒くつやあるをぬりこるを云椋実とハうゆ
〻にて烏〻光あ〻さ〻〻をぬりこるを云サハシとハ
ぬりこつる事を云サハシ乃事
桃花藥葉云烏帽子當家ハモロ額ナリ四十以後ヤウ〻
サハスベシ云〻裝束拾要抄云烏帽子宿老ノ人薄塗ハ年
ノ人厚塗近年不論老少薄塗ヲ着ス不可然事也云〻
桃花藥葉ニ四十以後トアルハ宿老ヲサシテ云ヘルナルベ
シサレハ拾要抄ニ宿老薄塗トアルヲ以テ推シ見レハ藥
葉ニサハスト云ヘルハ薄クサウトヌリタルヲ云ヘルナルベシ